

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2170200568		
法人名	株アートジャパンナガヤ設計		
事業所名	グループホームうららびより関		
所在地	岐阜県関市倉知1726		
自己評価作成日	令和3年11月25日	評価結果市町村受理日	令和4年2月15日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kairokensaku.mhlw.go.jp/21/index.php?action_kouhvu_detail_022_kani=true&JigyosyoCd=2170200568-00&ServiceCd=320&Type=search
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 ぎふ福祉サービス利用者センター びーすけっと
所在地	岐阜県各務原市三井北町3丁目7番地 尾関ビル
訪問調査日	令和3年12月16日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

開所して17年が経ちました。理念の「いつまでも、どこでも、その人らしく最後まで、笑顔ある暮らし」を職員一丸となり、常に専門職であるべき姿を目指しています。2020年4月に1ユニット増床し3ユニットとなりました。機械浴を設置し、今まで入浴できなかった方も安心して入浴できるようになりました。外出を主体にしていたホームですが、コロナ禍で制限を余儀なくされましたが、感染対策をしながら出来ることを考えています。ホーム周辺での日光浴、季節の行事、ユニットを超えた交流、学生との交流、元気な姿を家族にお届けする取り組み等を行っています。その人らしい暮らしができるよう努めていきたいと考えています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

管理者と職員は、常に利用者一人ひとりの思いに寄り添い、コロナ禍にあっても、利用者の笑顔を増やせるよう、個々の趣味や得意分野を活かしながら支援し、身体機能の維持とQOL向上に取り組んでいる。事業所建物の周りにはトクサが植えられ、職員と利用者が日々、丁寧に手入れをしながら、地域住民や訪問者への癒やしに繋げている。管理者は、職員個々の能力や得意な事を仕事に活かしてスキルアップできるよう、キャリアパス制度でモチベーションを高め、就業環境の整備にも取り組みながら、より良い利用者支援に繋げている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価票

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念と転倒防止スローガン、薬のミスゼロ宣言を掲示、初心に返って振り返るようにしている。理念にあるよう、その人らしい暮らしが出来る様に努めている。	運営理念と共に、具体的な目標として「転倒防止スローガンと薬のミスゼロ宣言」を掲げている。服薬に関しては、「指差し・声出し・職員間の連携」と具体的に挙げ、職員会議や各ユニット会議で共有し、実践に繋げている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	隣の美容院、近隣のスーパーを利用している。従来はふれあい食堂や倉知小学校との交流を行っていたがコロナ禍で出来ていない。中部学院大学の実習生受け入れ、ドッグセラピー&フットマッサージは感染対策を行い実施して大変好評であった。	自治会には加入していないが、地域の情報や関係作りは出来ている。コロナ禍にある為、地域住民との交流は難しいが、事業所として学生の介護実習受け入れを行ったり、感染対策をした上でボランティアの訪問も受けている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	認知症の専門性を活かし、来訪された方にはアドバイスをしている。コロナ禍で施設が開放できないが、ふれあい食堂が自粛中である		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	当初は奇数月に年6回、家族、行政、包括、近隣の出席で開催をしていたが、コロナ禍によりR1.3月からは書面開催で行っている。資料を配布、意見を頂き、会議録として報告をしている。	運営推進会議は書面開催にて実施している。活動報告や利用者状況、ヒヤリハット・事故報告・家族面会方法等についてまとめた資料を、家族を含めて関係者に送付し、意見を求めている。届いた意見と共に会議録を作成、次の運営推進会議資料送付の際に報告を行っている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	毎月、入居数、待機数を市に報告。書面開催の運営推進会議では意見を頂き運営に反映をしている。	行政には、毎月、事業所の状況を報告している。新型コロナウイルス感染対策や介護法改正については、メールや電話で相談しながら助言を得ている。運営推進会議書面開催についても、意見や提案を受けながら、協力関係を築いている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束は行っていない。玄関は安全面の為施錠だが、外に出たい方は柔軟に対応している。身体拘束廃止検討委員会を設置2カ月に1回会議を開催。6か月に1回身体拘束の事例を元に勉強会、新人職員は入社時に研修を行い考える場とする	身体拘束廃止検討委員会の中で、実施調査の確認を行っている。玄関やトイレに鍵かけについて、事例を挙げて話し合い、スピーチロックにあたる声かけや対応方法を見直している。既存の項目にホーム独自の項目を加えることを検討し、今後も、身体拘束をしないケアの実践に取り組むとしている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	2か月に1回の委員会の他、虐待防止について学ぶ機会を設け、いかなる場合でも虐待は行わない事を実践している。		

岐阜県 グループホームうららびより関

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	外部研修を順に受講し、全職員へ周知をしている。出来るだけ多くの職員が研修に参加し、制度を理解、活用できるようにしていきたい		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時に契約書・重要事項説明書を家族と読み合わせをし確認をしている。加算の新設、料金改定等変更時は、都度説明をし契約書の取り直しを行っている		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議には意見を求めるよう依頼をしている。電話で思いや希望を話される方が多く、申し送りや『気づきノート』で職員に周知をし、運営に反映をするよう努めている	ホーム便り「うららびより」には、利用者の日常生活や行事の写真を掲載し、家族に送付している。家族の面会時や電話連絡の際に意見や提案を聞き、「気づきノート」に記録し、運営に反映させている。面会は、制限付きではあるが、窓越しやオンラインにて行っている。	感染予防対策の為、利用者と家族が直接会うことが難しい状況である。オンライン面会も実施しているが、家族によっては利用方法が難しく、出来ない場合もある。感染拡大状況を見ながら、家族の要望を叶えられるような更なる工夫にも期待したい。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	管理者は年2回及び契約更新時に面談を行い、意見を聞く機会を設けている。人事考課シートで自己評価、意見を確認し、管理者と面会を行う中で具体的に職員からの意見を聞いている。毎月の職員会議は全員参加で自由に発言できる場を心掛けている	職員は人事考課シートで自己評価を行い、管理者は面談にて職員の意見や提案を聞いている。毎月の職員会議は午前中に、全員参加で行っている。管理者は、職員の家庭環境にも配慮し、働き易い職場環境作りに努めている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	キャリアパス制度、等級規準書、人事考課制度、人材育成を取り入れ公平な評価を行い、これを処遇に反映している。職種や役割に応じて期待される仕事の範囲が明確になり、モチベーションの向上に努めている		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人として、無資格、未経験者には『初任者研修』を全額法人負担で受講できる。新人職員は研修期間を設ける。外部研修には積極的に参加をしている		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	他事業者の方から「ぜひ、うららの方に育てて欲しい」と自宅で育てた母の苗を頂いた。市が主催するケアマネを対象とした研修会に参加し交流を深めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前の事前面接や担当ケアマネから情報を得る。本人と向かい合いながら、不安な気持ちを受け止め、楽しいことは共感して喜び、安心して生活できるよう努めている		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	認知症を確認してからサービス導入までの自宅での生活をお聞きする。家族の思いや要望をお伺いして関係作りの構築に努めている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人、家族の意向を十分に聞き、何が必要かを認識する。当事業所では対応できない時は、他のサービス事業者を紹介することもある		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者からの言葉に耳を傾け、一人ひとりの思いに対応できるよう心掛けている。生活の中で役割や生きがいを見いだせるよう努めている		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	写真付きの手紙で近況報告を行う。家族には利用者を一緒に支えていくことを理解して頂き、対応して頂ける時は負担をかけないよう協力を依頼している		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	面会は3年10月から段階的に条件付きで対面で行っている。家族や知人からの電話の取次ぎは随時対応。年賀状、暑中見舞いを家族や知人にお出して返事を頂き、手紙のやり取りをしている方も見える	新型コロナ感染予防対策として、家族との面会は制限付きで行っている。また、電話の取り次ぎや手紙でのやり取りを支援し、馴染みの関係継続に努めている。利用者や家族の思いに寄り添い、オンラインでの面会も実施しているが、利用が難しい家族もある。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	殆どの利用者が日中リビングに見え、利用者同士の交流が見られる。職員は利用者一人ひとりの生活や認知を把握し利用者同士の関係も把握をしている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去後の生活がスムーズに移行できるよう情報の提供を行う。その後の様子や相談、電話、訪問等を随時対応している		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居時に本人、家族にはホームでの生活について思いを伺う。日々の会話に耳を傾け、気づきノートで共有をしている。好きなこと、得意なことは暮らしの中で取り入れるように努めている。	日頃のケアの際や日常生活での会話や行動、表情を見ながら、本人の思いや意向を把握するよう努めている。利用者の得意な事、好きなこと、やってみたいこと等を訊ね、傾聴しながら、新たな情報を気づきノートに記録し、職員間で共有している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	事前面接での聞き取りを重視している。本人や家族の主訴、サービスに至って経緯、地域に関わりある住人として、以前のケアマネから情報提供により把握に努めている		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	本人のペースで過ごして頂けるよう支援をし、日々の様子はケース記録、変化や気が付いたことは『気づきノート』にて一人ひとりの力量や過ごし方を把握している		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	当初は6か月に1回サービス担当者会議を行っていたが、コロナ禍で開催出来ていない。家族の意向は来訪時や電話にてお伺いをし計画を作成している。毎月全職員によるカンファレンスにてケアの検討を行い、全員の意見が反映された介護計画書の作成に努めている	コロナ禍の今、定期的なサービス担当者会議開催が難しい状況である。面会時や電話等で家族の意向を聞き、毎月のカンファレンスにて、全職員でケアの検討を行っている。担当者の意見や「気づきノート」、モニタリング結果をもとに、利用者の現状に即した介護計画作りを努めている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の『介護記録表』『生活記録表』の他に、ケアの気づきは『気づきノート』を活用し情報共有を図っている。『気づきノート』から日常の変化を基に介護計画を見直し評価に活かしている		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	1人1人の状況に合わせてサービスが提供できるよう、特に入浴などは利用者のニーズに合わせて支援をするように努めている		

岐阜県 グループホームうららびより関

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	コロナ禍で小中学校の交流、夏祭り、ふれあい食堂、介護相談員、ボランティアの受け入れは行っていない。感染対策を行い、中部学院大学実習生受け入れ、ドックセラピー&フットマッサージを行った		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医の家族受診を基本としているが、訪問診療(内科・精神科・歯科)が増えている。受診の際はバイタル表や情報の提供を行い、ホームでの様子を報告している	かかりつけ医は本人・家族が選択し、希望により協力医による往診対応をしている。職員として看護師の配置があり、日々の健康管理と共に、利用者の急変時や状態に応じて医療機関と連携しながら、適切な支援が出来る体制がある。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	職員として正看護師を配置している。日々の健康状態や変化にも適切に対応し、些細な体調変化も見逃さないよう介護職と看護職の連携を密にしている。特別指示書により訪問看護を利用する場合もある		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院時には、介護サマリーを提示し治療計画や経過観察を常に把握できるよう連携を取っている。また、利用者にはアルバムや写真をお持ちして頂く。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	R3年度は1件の看取り、4件の終末期ケアを行った。入居契約時に指針を提示し、本人家族の意向を把握している。状態に応じ随時カンファレンスを実施し、主治医や訪問看護、家族と連携を図りチームで支援をしている	重度化や終末期について、事業所の指針を説明し、本人・家族の意向を確認している。状態の変化や段階に応じて、関係者で話し合いを重ね、再確認をしながら支援している。看取り後には、家族へのグリーフケアも行いながら、関係者と共にチームで思いを共有し、今後のケアに活かせるよう取り組んでいる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	救急搬送時は、個人ケースに利用者情報(既往歴・服薬状況等)をまとめ速やかに対応出来る様に努めている。緊急時のマニュアルがあり事故発生時には適切に対応できる用意がある		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	毎月第3木曜日をホーム内避難訓練の日と位置づけ、火災、地震、洪水を想定。年1回、消防署立ち合い訓練、夜間想定訓練を行っている。今後は、物品等の整備や見直しを行いたい	毎月、ホーム内で避難訓練を実施し、河川からの洪水や火災、地震を想定した訓練も行っている。豪雨による河川からの洪水で被害はなかったが、川の水位が上昇した時は、地域から応援の声をもらい、貴重な経験にもなっている。災害時において、地域住民や地元消防団の協力を得られるよう関係の構築に努めている。	災害対策として、非常時の備蓄品、防災用品等の見直しを行う予定としている。今後も、気象情報等の把握に努め、地域の協力を得ながら、様々な災害を想定した訓練の継続に期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	長い関りから馴れ合いにならないよう、一人ひとりの適切な声掛けを心掛け、職員間でそれを共有している。個人情報漏れないように気を付けている。	職員は、利用者一人ひとりの人格を尊重し、思いに寄り添った支援に努めている。特に、言葉遣いや対応で誇りを傷つけることのないよう心がけている。また、個人情報についても、常に配慮しながら適切な対応に努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者の思いに耳を傾けたり、表情を読み取ることを心掛け一人ひとりに寄り添う事で、自己決定がしやすい環境づくりをしている。利用者が自分の思いを伝えられるよう傾聴の姿勢を大切にしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者の体調・気分を観察しながら1日の中で少しでも人との関わりが持てる様声かけ誘導を行う。趣味や生活を把握しレクなどへの参加を呼びかける		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	朝の服選び、化粧をしたり、髪の毛を整えたり、風呂上りには化粧水等、できる環境を整えている。隣の美容院では希望者にはカラー染を行う		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	献立は法人の管理栄養士が作成し、食材は近隣のスーパーで買い出し、ユニットごとに食事作りを行っている。利用者の状態に合わせて出来立ての温かい食事を提供している。誕生日にはご本人の好物などを可能な限り希望に沿って料理を考案している	法人の管理栄養士が献立を作成し、利用者の状態に合わせた形態で提供している。ユニット毎に調理した出来立ての食事を提供できるよう、利用者も出来る範囲で、積極的に関わり、干し柿作りも楽しんでいる。以前は、寿司や鰻等、外食に出かけていたが、今はテイクアウトを利用することもある。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事摂取量、水分摂取量、体重測定を記録。嚥下困難な方はトロミ剤、水分摂取ゼリー、ミキサーの活用。食事摂取が少ない方は、栄養剤や高カロリー食を適宜使用している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔ケアは行き、夜間は義歯洗浄剤で洗浄を行う。希望者には訪問歯科による診察や義歯の調整、口腔ケアを受けることができる		

岐阜県 グループホームうららびより関

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	トイレでの排泄が基本であり、夜間もポータブルの設置はなく、排泄チェック表にて一人ひとりの排泄状況を把握しトイレ誘導を行っている。リハビリパンツから布パンツに替えられた方も見える。	職員は、利用者一人ひとりの排泄パターンを把握し、個々の排泄習慣や量を考慮しながら、声かけと誘導を行い、可能な限りトイレでの排泄を支援している。夜間もポータブルトイレの使用はない。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	10時には牛乳入りのコーヒーを提供。食事バランスや水分摂取、繊維を含む食品を摂取する。歩行や体操で便意を促すが、下剤が必要な方は医師の指示の元、無理の無いように服用をしている		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	週3日の入浴を基本とし、午後から行っている。R2.4月から機械浴を設置し、どなたも安心して入浴ができるようになった。拒否がある方は時間変更や翌日に入浴。体調に応じてシャワー浴や清拭等でも対応をしている	利用者の状態を見ながら、週3回の入浴を支援している。新たに設置した機械浴で、ゆっくりと安心して湯船に浸かれるようになっている。利用者の体調や気分によっては、足浴やシャワー浴、清拭などで支援したり、季節のゆず湯も楽しめるよう工夫している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中の活動を促し、生活リズムを整えている。一人一人の体調や希望に応じて昼寝をしたり、夜、ゆっくりテレビを見て入眠できるようにしている		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	日々の『介護記録表』『生活記録表』の他に、ケアの気づきは『気づきノート』を活用し情報共有を行っている。『気づきノート』から日常の変化を基に介護計画を見直し評価に活かしている		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	生活歴を考慮し、家事等(食器拭き・洗濯たみ・掃除・モップ拭き、雑巾縫い)を行う。出来る事をやって頂き、ユニットでの役割を持って生活をして頂いている。少しずつであるが、馴染みの場である市内の菊花展やドライブには出かけている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	利用者の状態によって個別に散歩をしている。「外に出て日光を浴びて骨を丈夫に」を合言葉に少しでも外に出る時間を設けている。市内ドライブや菊花展へ順番に外出をした。外食や喫茶店へは自粛中である	天気の良い日は、周辺を散歩したり、日光を浴びながら外気に触れられるようホーム周りのトクサの手入れや、プランターの花の管理を利用者と共に行うなど、工夫している。また、感染対策をした上で、人数を分けてドライブや菊花展に出かけ、利用者の気分転換を図っている。	

岐阜県 グループホームうららびより関

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	個人で現金を持ち管理をしている方も見える。大半の方はホーム金庫でお預かりしており必要物品を購入する		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	毎月家族への手紙を書く。利用者、職員が近況報告をし写真も付ける。今年から年賀状、暑中見舞いを出し、返信もあった。電話の取次ぎは承諾を得た方にはお繋ぎをしている		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関口には季節の花をプランターで育てたり、日光浴用に椅子を置いている。リビングは自然の光が入り、朝夕の風景がよく見え風の通りが良い。壁には行事写真を掲示し季節感が感じられる。誕生日祝いの写真は一人ずつ掲示をしている	リビングには明るい陽光が入り、窓越しにみえる田園風景や桜の木、キウイの棚等を眺めて、四季の移ろいを感じることができる。壁面には、行事や誕生日会の際の笑顔の写真が飾られている。畳コーナーも有り、利用者同士が洗濯物など畳みながら、会話を楽しんだり、ソファや椅子などを移動させて、好きな場所で思い思いに過ごせるよう工夫している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングには大型テレビがあり、ソファや椅子で過ごして見える。リビングからイスを移動して日光浴や新聞を見たり、廊下の日当たりの良い場所で外を眺めたり体操をされる方も見える		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自宅に近い環境づくりを心掛けている。家具や衣類など今までと変わらず過ごして頂けるような環境になるようにしている。	居室には使い慣れた家具や日用品、本やアルバムなどを持ち込み、使いやすいように配置している。家族の写真や花を飾り落ち着いた雰囲気の中で、本人が安全に居心地よく暮らせるよう、低床ベッドを使用している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	利用者の目線で動線を確認し、安全で自立した生活が送れるよう環境の整備、それぞれに応じ、低床ベットやセンサーマットを使用している		